

みんな差異ってそれでいい

第1組 願了寺住職 篠田 穰

毎日、暑い暑い日が続きますがお変わりございませんか。2008年も早や半分を過ぎました。この6日は広島に、9日には長崎に原子爆弾が投下された日です。

そして、この法話の終わる8月15日は日本が戦争に敗れた日から数えて63年目に当たります。人間同士が命を取りあうような戦争は二度とやってはいけない。これからもずっと日本だけでなく、世界中が平和であることを願ってやみません。

お釈迦様の説かれたお経の一つに阿弥陀経があります。そこには「青き色には青き光、黄なる色には黄なる光、赤き色には赤き光、白き色には白き光あり」という言葉があります。

それぞれの色がそれぞれの光を放ち、自らを輝かせているように、人間のそれぞれのいのちの存在は、ありのまま尊くて、他と比べる必要がないと言うことを教えて下さっているのです。

私たちの姿や性格は一人ひとり差異うのです。そのことがはっきりしないと、とるに足らない優越感や劣等感でもって、日々右往左往し、時にはこれに悩んで自殺するものさえあります。

そんな私に、仏様は「自分自身になればいい、他の者にならなくてもいいんだよ。どんな人もありのままの自分自身を引き受けて生き活きと輝いて生きていってほしいと」と願っておられるのです。

私たちは、生まれながらにして、一人ひとりがそのままで光輝いている存在であるということを知らなければなりません。お盆をお迎えするにあたり、お内仏にお供えしているお花を今一度よく見てください。